
暇つぶしの会話

の - れ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暇つぶしの会話

【著者名】

NZマーク

【作者名】 の・れ

【あらすじ】

初です。ろくなもんじゃありません。

(前書き)

期待しなこよひし。

特にこれといった変化のない休み時間、僕は前の席で本を読み続ける彼に言った。

『なんか最近つまらないよね。』

彼はけだるそうに本から目を外して僕をみた。

『具体的に言いつと?..』

『何ていうか、同じ日常の繰り返しというか。』

彼は少し考える。癖である爪を噛みながら。

『これは俺の個人的な考え方で、答えとは言えないけど、ただお前の感性が乏しいだけなんじゃないか?』

平気でこんなことを言ひ彼を嫌いではないが内心気持ちが煮えたぎる。

『でもさあ、僕の感性が育たないのは今の世界や周りを取り巻く環境のせいでもあるよね。つまらないのはこの世界そのものだよ。』

彼はまた考えだす。

『それでもお前は生きてるだろ?他にも沢山の人が生活してる。それは諦めなのか?』

意外な切り返しだ、でも僕は答える。

『それも確かにあるよ。でも大多数の人は「つまらないもの」をつまらないと感じられないんだよ。』

彼は答える。

『「つまらないもの」を感じられない奴は不幸なのか？それは幸せとはイコールでつながってないと？』

『それ自体が個人の感性の問題だよ。僕は不幸だと思う。』

『でもそれは幸福ではないだろ？結局人生が楽しいかどうかは感性の善し悪しだよ。世界が輝いてようが腐ってようが関係ない。』

『

『腐った世界でも幸せな人は幸せだってことかい？』

『まあそういうことだ。その証拠にお前は不幸でも俺は特に不幸を感じない。』

結局何とも言えないけどな、そういうて彼は本に目を戻した。

実のない会話だ。この会話自体、くだらない。

ふざけたチャイムの音が休み時間の終わりを告げた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8313c/>

暇つぶしの会話

2010年12月8日06時47分発行